

創刊号
 昭和60年10月1日
 阿品台地区
 コミュニティをすすめる会
 阿品台公民館内
 (TEL 39-4338)

“本広報紙の紙名、ふれあいに決定しました”



町長
 半明英夫

育てよう
 よい友よい家
 よい地域

このたび「阿品台地区コミュニティをすすめる会」の広報紙が関係各位のご尽力により発刊される運びとなりましたことは、地域のコミュニティづくりの推進が要請されている今日、時宜を得た企画であり、誠に意義深く心からお喜び申し上げます。

(1) 阿品台地区居住人口の増加に伴い、昭和五十八年六月阿品地域コミュニティをすすめる会から分離独立されました本会は、発足以来二年余を経過したわけであり

が、この間組織の整備拡大をはじめ、今の目的とする「心の通う温かいコミュニティづくり」を推進するため、各種の事業活動を実施され、地域住民の親睦と連帯意識の高揚を図られるなど、着実にその成果を挙げて来られた皆様方のご努力に対し衷心より敬意を表す次第であります。

ご承知のように、最近における地方自治体の行財政をめぐる環境は依然として極めて厳しい状況にあり、また住民意識や価値観が多様化する中で自治体の事務事業は質、量ともに飛躍的に増大し、その態様も複雑多岐に亘っている現状であります。このような変化と都市化の進展に的確に対応しつつ、住民福祉の増進とサービス向上のため、効率的な行財政の運営に努めることが町政に携わる私の責務でありますので、昭和七十年

を目標年次として昨年策定した新総合計画の「らしき一新、くらし活きいき、ヒューマンはつかいち」のキャッチフレーズのもと、都市像を「健康で文化的な人間性豊かな住みよいまち」と定め、町民の誰もが生きがいをもって暮らし「本当に任んでよかったと言えるまち」の実現をめざし、最大の努力をいたす考えであります。

この中で提唱しておりますように、快適な総合的生活居住環境を整備するとともに、住民参加ルールの確立によるコミュニティの形成を通じて、活きいきとした住民生活を実現させるためには、失われつつある人間性を回復し、住民の一人ひとりが自ら居住する地域に強い関心と愛着をもち、社会の一員としての責任と役割を自覚して住民相互の連帯感を深め、温かい心の通いあう地域社会を築くことにあると考えます。

美しい海の眺めと緑に囲まれた阿品台地区住民のご多幸とコミュニティをすすめる会の益々のご発展を期待し、併せて町政に対する格別のご協力をお願いいたします。ご挨拶といたします。



会長
 山本治喜

新しいふれあいを
 大切に

阿品台は、ニュータウンといわれますように、計画的に作られた新しい町です。

そこに住む私共は、廿日市の在来の人から言われるまでもなく、所謂「よそもの」の集まりです。今迄の習慣や伝統も、付き合い方も違い、或はそれらをなつかしみ、或はそれから逃れたくて或はそんなことは考えないで、阿品台に個々に移り住んで来た人々の集まりです。

そこで、新しい町における私共住民の気持に最も合い、将来のことを考えての「子供達の為になる」「長く生きてきた者が楽しい生活ができる」住民相互の交流とかふれあいを、なるべく、自然に、偏りなく、すすめていくことが必要となり、大事なことになって参ります。

これらのふれあいを大切にしていく地域の交流発展のためには、即ちコミュニティをすすめるためには「コミュニティセンターとしての公民館を中心とした諸活動、町内会や、各班・各組、PTA、子供会、長寿会、スポーツ団体、趣味のグループなどが夫々活動しております。これらがすべてコミュニティをすすめる活動となっております。これらの各種団体を含めた阿品台の総合的なふれあいを考えて推進していくのが、阿品台地区コミュニティをすすめる会なのです。

忙しい人にも、何かができる。

「私共は仕事もっています。又子供の養育や、家族の世話など忙しい日を送っています。コミュニティの役員になっても、仲々会や部のお世話はできません」という声を聞きます。全く本音だと思います。

しかし、人夫々、自分のため、人のために役立つ、何かをもっています。

全面的に、かかり切れる人は、殆どおりません。時間的に余裕のある人、ない人。口だけでも協力

できる人。お手伝いならやれる人。趣味の面で協力できる人。考えてみますと、誰でも何か協力し、推進できるものも持っているものです。時間のない人は理解をもつことも、或は批判することでも、結局はコミュニティをすすめることに協力していることとなります。要は、自分の心を清めていくこと、それだけで、十分ふれあいをよくしていく事になるものと信じております。

創刊にあたって

広報部長 栗林 保次

広報部の目玉である広報誌の発行が町長さんから玉稿を頂いて創刊の運びとなりました。

皆さんアンテナには強弱の差こそあれ必ず指向性があります。私達も心のアンテナをコミュニティに向けてよりよいものにしたいと存じますので皆様方の御協力を御願ひ致します。

広報誌がその紐帯の働きができますよう御指導と御声援とお気軽に御寄稿を頂きますよう御願ひ申し上げます。

役員紹介

役職	氏名
会長	山本 治喜
副会長	太田 佳宏
監事	金子 元一
監事	海部 鉄次郎
會計	倉光 誠一
會計	麻生 敏徳
會計	坂元 忠彬

専門部の役員と仕事

広報部 栗林保次

広報紙を発行し会の活動を広く知らせたり活動推進のための調査など行う。

文化部 海部鉄次郎

会員の教養を高めるため講演会などの行事、各種文化サークルづくりなどを行う。

福祉部 田代淳一

社会的に恵まれない人々の援助、環境整備など地域の福祉づくりを行う。

体育部 米村広志

各種体育行事の実施、スポーツ・レクリエーションを通じて体力、健康増進を図る。

婦人部 石川基子

婦人の役割を考え、婦人活動を組織的に進めていくなど、女性の地位向上を図る。

青少年部 栗栖知則

青少年健全育成のための指導、非行化防止の対策また青少年活動の活発化などを図る。

六十年総会資料

六十年総会が六月二十九日開催されたの事業計画、収支予算が議決されました。

昭和六〇年度事業計画

目的

阿品台地区住民が心の通う温かい「コミュニティづくり」を推進するため、親睦と連帯を強化する。

事業の内容

1. 会議

総会、理事会、常任理事会及び部会

2. 「あいさつ運動」「親切運動」

を呼びかけ住み良い町づくりに寄与する。

昭和60年度収支予算

収入の部

科目	予算額	摘要
繰越金	383,791	
会費	270,000	100円×2,700世帯
補助金	180,000	町社会福祉協議会より補助
雑収入	5,000	利子
計	838,791	

支出の部

科目	予算額	摘要
会議費	50,000	総会、理事、部会等
部活動費	360,000	60,000×6(部)=360,000
その他活動費	250,000	小集団100名以下 3,000
事務費	50,000	通信費、用紙、印刷代等
予備費	128,791	盆踊助成等
計	838,791	

3. 広報紙を発行し住民の心の交流につとめる。
4. 講演会、研修会等を開催し住民の文化の向上を計る。
5. 老人会の結成を呼びかけると共に敬老会等を行い老人福祉に寄与する。
6. 各種スポーツ行事を実施する。
7. 青少年健全育成のための指導体制づくり及びその助成を計る。
8. 阿品台盆踊り大会を共催する。
9. 各町内会等の地域活動を奨励する。
10. 「阿品台音頭」の歌詩を募集する。また「阿品台太鼓」同好会を育成援助し住民意識の高揚を計る。
11. 公民館活動へ積極的に協力する。

地域行事に

奨励金が出ます

コミュニティを進める会の事業計画に「各町内会等の地域活動を奨励する」また目的に「親睦と連帯を強化する」とあります。みんなのコミュニティ活動として活発な地域行事をすすめていきましょう。これを奨励する意味で地域行事に対して奨励金が出ます。

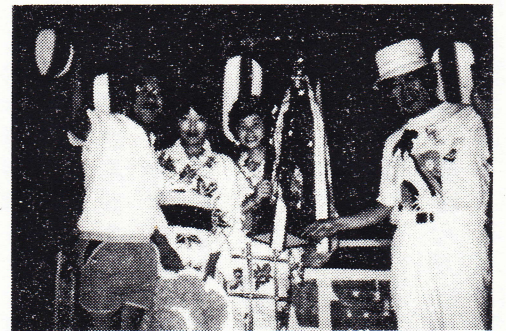
各町内会の全員を対象として誰でも参加できる行事を実施された場合は町内会名(団体名)責任者、行事名、日時、場所、内容を事務局(公民館)までお届け下さい。奨励金は

- 小地域一〇〇名以上 三、〇〇〇円
 - 小集団一〇〇名以下 二、〇〇〇円
- 公民館祭り案内

十一月二日(土)一〇時～一七時
三日(日)一〇時～一六時

盆踊り大会盛況に終る

さる八月三日夕刻より第六回盆踊り大会が約四千人が参加して行われました。ばんばりに照らされた、女性た



ちのゆかた姿は盆踊りの雰囲気をよう盛りあげ、夏の夜のひとときを大人も子供も一緒に

なっていました。

この大会を通じて、企画をされた実行委員の方々、会場の設営、片付け、警備の方々等の裏方さん、非常に御苦労さんでした。来年はもっと一人でも多く参加して、大会を盛りあげましょう。

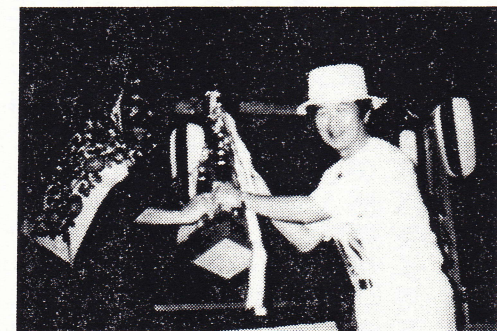
「敬老の日」に

思ったこと

民生・児童委員 丸西 遜

盆踊りコンテストの熱演の結果は、一位 ほのぼの、二位 一丁目、三位 三丁目でした。又会場のあちこちには、各町内

近年福祉のニーズが急速に高まるにつれて、その態様も施設福祉から、地域福祉へと進展をいたして参りました。



会の方でによりをかけた、焼そば、いかやき等の夜店等が並びおもしろい。そうなおもわず財布の紐がゆるんだ人が多く見受けられました。特にかき氷がとぶように売

この度九月十五日阿品台公民館に於て行われました廿日市町及び廿日市町社会福祉協議会共催の阿品台地区敬老会は、「阿品台コミュニティを進める会」のご協力により、コミュニティを進める会の婦人部と福祉部の方方のご奉仕を得て盛大に無事終了することが出来ました。そもそも廿日市町における敬老会は、各地区とも地域の特色を盛り込むよう配慮されて地区毎に実施されておりますが、当地域は歴



史的にも
浅く、従
って老人
同志の懐
古的な情
緒のつな
がりに乏
しいので、
イベント
への魅力
は少ない

地域におけるコミュニティ作りの
重要且必要性を強調せられ、県行
政組織の中にコミュニティ推進課
を設けられてまで地方の時代の先
鞭を説かれました。

過般或る町内会の総会に出席し
ておりましたとき、たまたまコミ
ュニティ組織へ参入する町内会の
あり方について計られたところ、
会員の一人からコミュニティとは
何か？、そんなものは我々には
よくわからん、と強い調子の発言
を耳にしたことがあります。

コミュニティに就いては後日機
会を得て若干の説明をいたしたい
と思いますが、とりあえず「近隣
社会」ということとしまして、生
活共同体を組織化し、共に能力の



範囲で自
主的に社
会生活に
協力奉仕
すること
により、
日常の暮
らしを一
層明かる
くし、楽
しい人生

生活を得ようというものでありま
す。

私達の行くてには、二十一世紀
という真白な大地があります、こ
の大地をピンク色のユートピアに
仕立てることがこれからの大きな
課題ではないでしょうか。

地域の皆さんでより良い環境を
作り守り育てていこうではありま
せんか。

反省の巻

阿品台四丁目 栗林 保次

それは七月二十二日夕暮れどき
のことでした。「大至急回覧」を
持って道路を隔てた筋違いのSさ
ん宅を訪れたときのことです。

玄関の扉の前で三・四人の男性
が何かお話し中でした。私は大き
な声でSさんSさんと叫びました。

すると私の大きな声に驚いた一人
のひとがSさんはここにおられま
すよと教えてくれました。見れば

紛いもなくSさんでした(赤面)。
私はSさんに限らず私の班でも御
主人の顔を知っているのはほんの

僅かです、奥さん方は比較的懇意
にお話ししている人は多いのです

が……(奥様方と懇意では差し障
りがあるかも知れませぬ) 会合
があっても出席は殆ど奥さんが代
理出席されています。

阿品台に転居して二年九ヶ月、
このようなことであってはならな
いと反省しています。身近なこ
ろから交際の輪を広げていくのが
コミュニティを進める原点ではな
いでしょうか。

上からの指導も大切ですが、お
互いが気持の上で纏っていくよう
にするにはどうすればよいか、何
か一つでも二つでも知恵を出し合
うようにしなければと思ってお
ります。

・阿品台音頭の歌詩を募集いたし
ます。

編集後記

阿品台ニュータウンは私達の町
です。そして子供達にとってこの
町はクふるさとです。

私達みんなが手をつなぎ、もっ
とわかりあえるように「ふれあい」
を発行することになりました。皆
様の積極的なご意見をお待ちして
います。(寺本)

ところで近年経済社会の高度化
に伴い、価値感が多様化した中で、
特に精神活動が後退している地域
社会に於て、コミュニティの重要
性は申す迄ありません。

昭和五十年当時宮澤知事(現参
議院議員)が県政の推進に当って、